

令和5年度 江戸川区立松江第五中学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	○よく学び、深く考えた行動のとれる生徒の育成	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	●「互いのよさを認め合い誰もが輝ける学校 ～生徒も、教職員も保護者も地域も～」を築くことで、学校の教育目標を達成する。 ●「自ら考え、表現し、仲間とともに高め合える生徒、自ら課題を発見し、課題解決に向けて行動できる生徒、心と体の健康を大切に、たくましく成長しようとする生徒)を育て、学校の教育目標を達成する。 ●「人権尊重の精神に富む教師、生徒や保護者や同僚からも信頼される教師、魅力あふれる授業を実践する教師、特別支援教育の理解に基づいた生徒指導をする教師、特別支援教育の理解に基づいた生徒指導をする教師」を目指し、学校の教育目標を達成する。
	○心身ともに健康で、思いやりの心をもった生徒の育成		
○責任を重んじ、自主性に富んだ生徒の育成			
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>・一人一人の生徒のよさを生かしたさまざまな活動の工夫により、前向きに活動する生徒が増えた。 ・夢を育む講演会においてオリンピックを呼びよい講演会ができた。 ・学校行事を工夫して実施できた。 <課題>・特別な支援を要する生徒に対する指導と対応。		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策		
				取組	成果	評価	コメント			
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に對しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	1 教員の学習指導力向上に向けた校内研修を実施する。 2 小グループで意見を出し合う、比べ合う、まとめる過程を重視した授業を取り入れる。 3 一人一台端末を活用した授業公開を実施する。 4 外部講師による補習教室を実施する。	1 教員の学習指導力向上に向けたICTを活用した研究授業を年に3回実施 2 小グループで意見を出し合う、比べ合う、まとめる過程を重視した授業を毎月取り入れる。 3 一人一台端末を活用した授業公開年間3回実施 4 外部講師による補習教室を毎日実施	A	A	A	タブレットを活用した話し合い活動やパワーポイントによるプレゼンテーションをしている様子がみられた。各家庭でのタブレットの活用がさらに増えることを願っている。	基礎学力の定着を更に進めるため、ミライシード活用による家庭学習の促進と定期考査前の補習教室を充実させる。		
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	1 自らのよさをどのように社会に生かしていくべきかという探求的な視点で読書活動を推進し、お勉め本紹介カード作成や弁論大会に向けた自分自身の考えをまとめ発表する機会を設ける。 2 読書科の充実をテーマにした校内研修を実施する。 3 図書スーパーバイザーと図書ボランティアによる学校図書館整備を行う。 4 公立図書館との連携する。	1 お勉め本紹介カード作成や弁論大会に向けた自身の考えをまとめ発表する機会を各学期に実施する。 2 6月に講師を招いた校内研修会を開催し、江戸川区の読書科についての理解を深め、年間を通じての取組につなげる。 3 図書スーパーバイザーと図書ボランティアによる学校図書館整備を月に1度実施する。 4 松江図書館と連携した公立図書館と学校図書室のサテライト化を実現する。	1 読書を通じた探究的な活動を計画的に実施できている。 2 6月に指導主事を講師にお招きして読書科の研修を実施でき、教職員の理解が深まった。 3 図書スーパーバイザーと図書ボランティアの方々による図書整備が毎月1回実施できている。 4 松江図書館と連携した図書室のサテライト化が実現した。	A	A	A	忙しい時間の中で読書科という学びの場があり、課題に向けて取り組んでいる姿をみることができた。校内研修もされており、継続して取り組んでほしい。	他の教科と関連付けながら他者の考えを聞く機会をさらに増やし、違う考えに触れ自らの考えについて、再考しブラッシュアップできる力をつけていく。	
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・保健体育での補助運動の実施 ・持久力・投力・瞬発力の向上	1 保健体育科(実技)の授業で「補助運動」を取り入れる。 2 レクリエーションや体力づくりを目的とした部を設置する。 3 部活動の指導者として外部人材を活用し、体力向上のための活動を実施する。	1 保健体育科(実技)の授業で授業開始時の5分間で「補助運動」を毎回入れる。 2 レクリエーションや体力づくりを目的としたヨガ部を設置し、月に1回程度活動する。 3 月に1回程度活動する。 4 部活動の指導者として外部人材を活用し、体力向上のための活動を週に4回実施する。	A	A	A	1 保健体育の授業で毎回5分間の補助運動を取り入れている。運動の苦手な層の生徒の体力向上がある。 2 レクリエーションや体力づくりを目的としたヨガ部の設置により、月に1回頻りに取り組まれている。 3 部活動の指導者として3名の外部人材を活用し、体力向上のための活動が実施できている。今後も継続していく。	A	保健体育や部活動だけの取り組みではなく、地域での活動実践も多く発信されており、体力向上について前向きに取り組む生徒の様子が確認できました。	地域のイベント(江戸川マラソン等)を活用し、目標として日常的に体力向上への意識を高めさせる。寒い時期には長距離走に取り組ませ、体力向上を図る。
	<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	1 ユニバーサルデザインを工夫した授業の実践 2 教室に入れない生徒の居場所としてエンカレッジルームの環境整備を実施する。 3 エンカレッジルームの指導支援員を確保する。 4 通常学級と特別支援学級との交流教育を学校行事や通常の授業に意図的に組み込む。また副籍交流については文化的教育活動において学期に1回交流する。	1 ユニバーサルデザインを取り入れた研究授業を特別支援学級と通常学級で実施する。 2 教室に入れない生徒の居場所としてエンカレッジルームの環境整備を毎月実施する。 3 エンカレッジルーム担当の指導支援員による指導を週に3日以上実施する。 4 通常学級と特別支援学級との交流教育を実技教科や特別活動を中心に意図的に組み込む。また副籍交流については文化的教育活動において学期に1回交流する。	1 ユニバーサルデザインを取り入れた授業を実践しているが研究授業に至らなかった。 2 教室に入れない生徒の居場所としてエンカレッジルームの環境整備を毎月実施する。 3 エンカレッジルーム担当の指導支援員による指導を週に3日以上実施する。 4 通常学級と特別支援学級との交流教育は予定通りに実施できている。また副籍交流については行事の見学という方法での交流となっている。	B	B	B	新しい取り組みとして「校内別室指導員」という活動が導入されたことは、素晴らしいと思います。その名称が「たちばなルーム」ということで今後のさらなる活用を期待します。	・外部人材を活用した人権教育をさらに推進していく中で、連携した新たな活動を創造する。	
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	1 hyper-QU活用した校内研修会を実施する。 2 hyper-QUを実施後の診断結果のWEBサービスを毎回活用し、各担任のさらなる理解を深める。 3 スクールソーシャルワーカーとの連絡協議会を実施する。 4 校内PCを活用した情報共有を図る。	1 hyper-QU活用した校内研修会を年に2回実施する。 2 hyper-QUを実施後の診断結果を特別支援委員会や教員間で共有し、組織としてさらなる理解を深める。 3 スクールソーシャルワーカーとの連絡協議会を月に1回実施する。 4 校内PCを活用した情報共有を毎日実施する。	A	A	A	1 hyper-QU活用した校内研修会を年に10月に実施できた。 2 hyper-QUを実施後の診断結果を特別支援委員会や教員間で共有し、組織としてさらなる理解を深めた。 3 スクールソーシャルワーカーとの情報共有を毎週木曜日に実施できている。 4 校内PCを活用した情報共有は日々実施できている。	A	hyper-QUというツールを活用して、生徒理解に努めている学校の状況がよくわかりました。今後も継続してほしいと思います。	学校だけでなく、関係諸機関との連携を深め、生徒理解と健全育成に努めていく。
	<自校(園)の取組の積極的な発信> ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	1 学校評議員との協議会を実施する。 2 学校公開は通常の授業だけでなく学校行事等の特別活動の工夫を積極的に発信・公開する。	1 学校評議員との協議会を学期に1回実施する。 2 学校公開は通常の授業参観を年に3回、特別活動を3回実施する。	1 学校評議員との協議会を学期に1回実施できている。 2 学校公開は通常の授業参観を年に3回、特別活動を3回実施できている。	A	A	A	学校公開や学校行事など、多くの教育活動を日頃から参観でき、情報交換がよくできている状況です。 ホームページや学校だよりでの情報発信もよく	日常的な交流を通しての情報発信を継続していく。	
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・保護者は学校評議員、地域の方々からのアンケート調査等(学校関係者評価)を実施し、その結果から教育活動の工夫・改善を図る。	1 学校関係者評価結果を組織内で共有し、組織として改善を図る機会を7月と12月の2回設定する。 2 学校関係者評価の報告書をHPにて年に2度公表する	A	A	A	1 学校関係者評価結果を組織内で共有し、組織として改善を図る機会を7月と12月の2回した。 2 学校関係者評価の報告書をHPにて年に2度公表している。	A	WEBによる学校評価(アンケート調査)が定着し、集計が速やかに行えているのでわかりやすくて安心しています。	WEBでの学校評価への回答率を高める工夫をする。
	教育情報の積極的な発信のための具体的な取組実施	1 学校だよりを毎月、学年だよりを積極的に発行する。 2 ホームページの「学校日記」を積極的に更新する 3 ホームページから学校行事動画を配信を発信する	1 学校だよりを月に1度、学年だよりを週に1度発行する。 2 ホームページの「学校日記」更新を毎日行う。 3 学校行事や教育活動の動画を個人情報を配慮した編集を行い、随時配信する。 3 ホームページから学校行事動画を配信を発信する	A	A	A	1 学校だよりを月に1度、学年だよりを週に1度発行できている。 2 ホームページの「学校日記」更新を毎日行っている。 3 学校行事や教育活動の動画を個人情報を配慮した編集を行い、随時配信できている。	A	学校だよりや学年だよりが定期的に発行され、新しい取り組みが実施されていることがわかります。今後も継続をお願いします	ホームページの更新を教員以外のスタッフに担当させることで教職員の負担を軽減させる。
特色ある教育の展開	開かれた学校づくりの推進への具体的な取組の実施	1 地域や保護者、教職員、生徒からの教育活動への提案事項や協力者をホームページから募集する。 2 学校と地域の橋渡しとして生徒を活用した取組を行う。	1 学校教育への協力者への表彰式を3学期に実施する。 2 お便り配達活動をする生徒「たちばな隊」を結成し、学校評議員、保護司、民生児童員等への配達を月に1回行う。	A	A	A	1 学校関係者評価結果を組織内で共有し、組織として改善を図る機会を7月と12月の2回した。 2 学校関係者評価の報告書をHPにて年に2度公表している。	A	地域や保護者が表彰される機会が設定されており、経営方針である「誰もが輝く学校」が推進されていることを感じています。	多くの人材を地域の方々からご紹介していただいている現状があり、今後は早い段階から協力依頼をしていく。